

宿泊客へ新体験プラン

「お米収穫」や「かまとたき」

あわらの旅館など4者協定

延びる 北陸新幹線

北陸新幹線の県内開業を見据え、宿泊客にあわら市ならではの地域体験型プログラムを提供しようと、旅館や農事組合法人など四者が二十七日、連携協定を締結した。

協定を結んだのは市内の農事組合法人あわら湯のものとファーム、まじわる農縁、グランディア芳泉と、スポーツコンサルタント会社の「START WITH HATHLETE NETWORK」(東京)。同社は地元出身で国体に出場経験のあるカヌーの後藤悠介選手が代表を務めている。

グランディア芳泉とまじわる農縁は二年前から連携

し、「朝どれ卵体験」や「カプトムシ取り体験」を実施しており、同じく「NETWORK」とは四月に北潟湖でカヌーに乗って花見を楽しめる宿泊プランを

企画した。あわら湯のもとファームとは八、九月にお米収穫体験やかまとたき体験を予定している。

調印式がグランディア芳泉であり、オンライン参加の後藤さんを含め各代表が出席し協定書に調印した。グランディア芳泉の山口高澄常務は「カヌーでの花見をした後に田んぼの収穫体験とか、朝どれ卵をかまとたき体験のごはんなどに、組織の枠を越えた新しいプランを宿泊客に提供していきたい。現場で働く人の話を聞く時間も設け価値を高めた」と話した。二〇二〇年以降、グランディア芳泉では三百三十八人の体験プランの利用があった。



新幹線県内開業を見据え協定を結んだ関係者たち=あわら市のグランディア芳泉で

(松田士郎)